

**PRESS RELEASE (報道関係者各位)**

2005年6月20日

**2005年版 中堅・中小企業のERP利用実態と潜在ニーズ探索に関する調査報告**

ノーク・リサーチ（本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5；代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL：<http://www.norkresearch.co.jp>）では2005年の中堅・中小企業のERP利用実態と潜在ニーズ探索に関する調査を実施し、その分析結果を発表した。

**中堅・中小企業のERP利用実態と潜在ニーズ探索に関する調査のポイント**

ERP導入率は13.4%、しかし潜在ニーズは非常に高い

- ・中堅・中小企業の基幹システムの約4割が約10年前のシステムを使っている
- ・ERPを知っているユーザが約9割、ユーザの意識は高まっている
- ・ERP導入の予定時期は「1年以上～3年以内」が約7割
- ・年商10億円未満の年間IT予算は500万円未満が多い
- ・一方、100億円以上企業では年商の約1%のIT予算を持っている

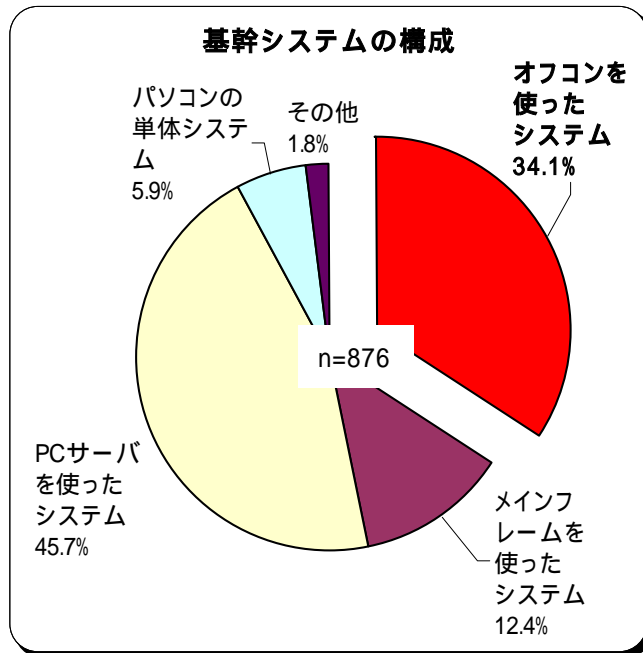
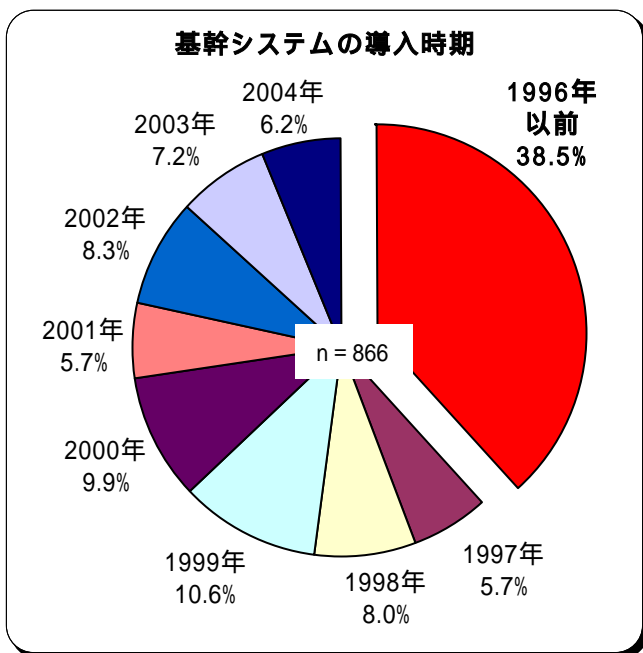
ERPへの不満点はPKG機能が約6割。PKGの完成度の低さが浮き彫りに

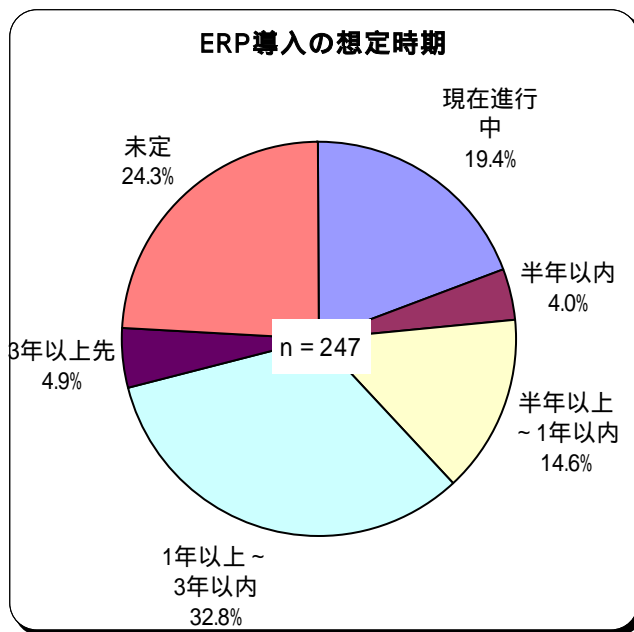
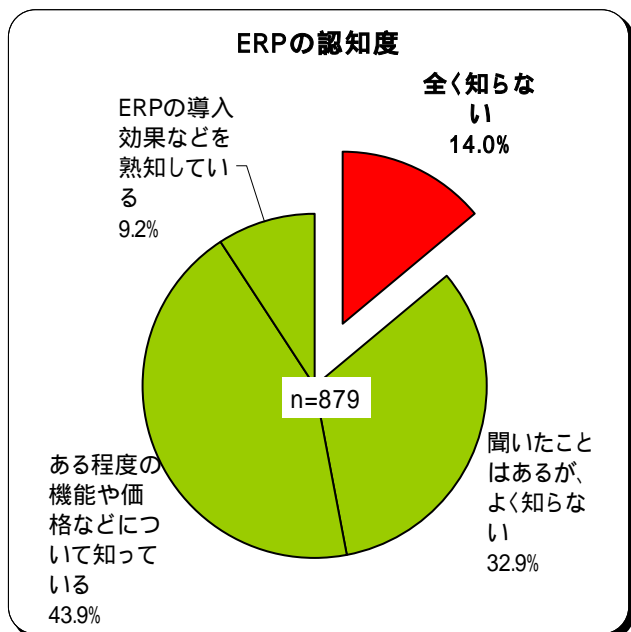
対象企業：全国の民間企業（年商5億円以上500億円未満）、有効回答数885件  
調査方法：郵送アンケート 調査分析期間：2005年1月～4月

**〔ERPの潜在ニーズ〕**

- 約10年前のシステムを使用している中堅・中小企業が38.5% -

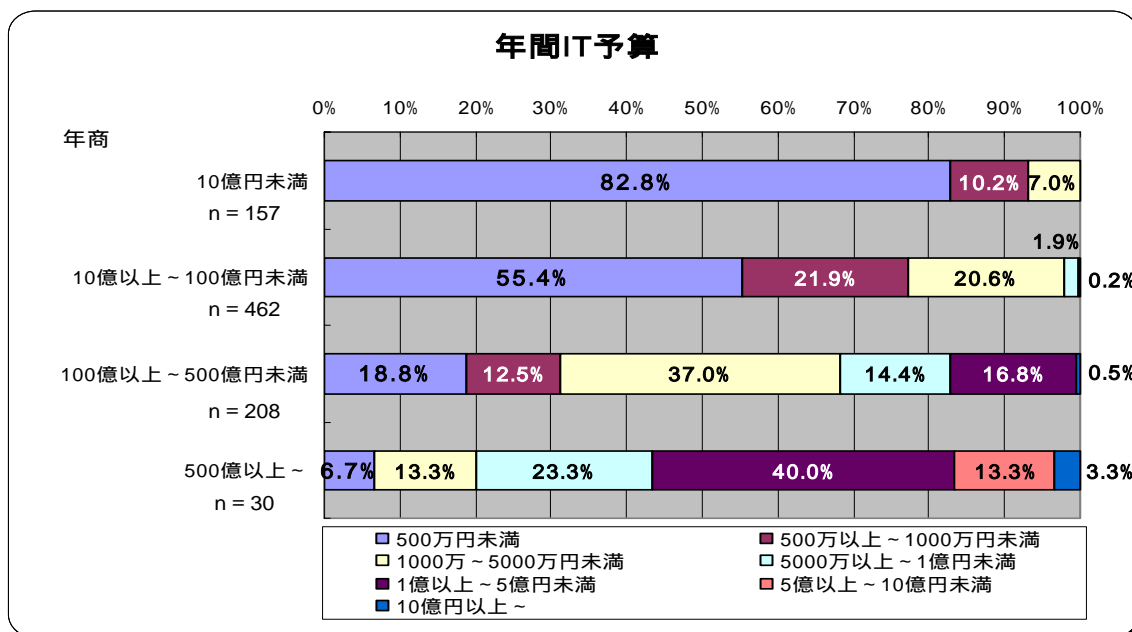
中堅・中小企業の基幹システムの38.5%が1996年以前となっている。一般的にリースの期限は5～6年と言われるが、その期限を超えた基幹システムは確実に老朽化している。老朽化したシステムはリプレースの必要がある。この38.5%のユーザがERPへシステム転換する潜在的なニーズの持ち主であり、今後も順調にERP導入が進んでいくことが予想される。



**- ERPを知っているユーザは86.0%、ERPを知らないは僅かに14.0% -**


ユーザ意識としては、ERPの認知度は高くなってきている。ERPを「全く知らないユーザ」は14.0%で、ERPの名前はすでに市場に定着していることは明らかである。しかし、「聞いたことはあるが、よく知らない」というユーザが32.9%いることから、ERPの導入効果などの具体的なERPの利点をアピールし、ERPの導入を推進していくべきである。

また、ERP導入の想定時期としては「1年以上～3年以内」が32.8%で最も高いポイントを示している。3年以内という見方をすると、70.8%という高い数値となる。この3年以内でERPの導入が大きく進むことが推測される。同時に、このユーザを獲得することが競争の激しい中堅・中小企業市場を勝ち抜く術となる。

**- ITの予算化は年商100億円以上から -**


年商 10 億円未満の企業では年間 IT 予算 500 万円未満が 82.8%、10 億円以上～100 億円未満では 500 万円未満が 55.4%となっている。しかし、年商 100 億円以上～500 億円未満の企業では 1000 万～5000 万円未満が 37.0%となっている。また、年商 500 億円以上では 1 億以上～5 億円未満が 40.0%となっている。

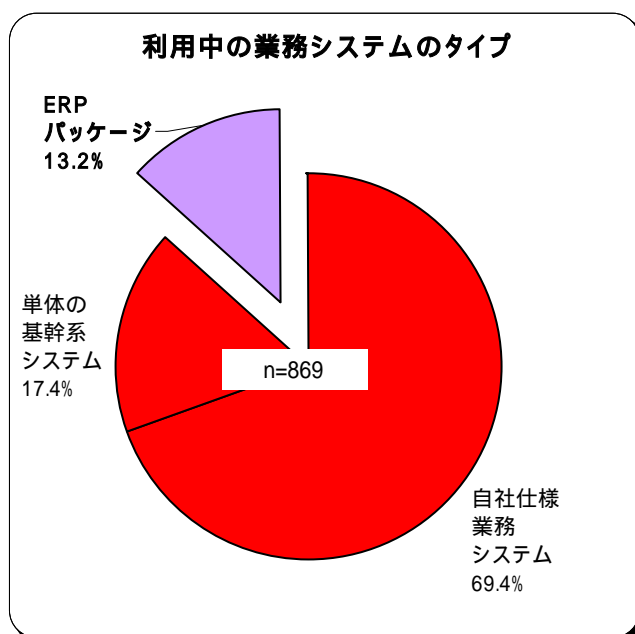
ここでも年商 100 億円を境にして年間 IT 予算が劇的に変化している。年間 IT 予算 1 億以上～5 億未満は年商 10 億以上～100 億未満の企業では 1.9%だが、年商 100 億円以上～500 億円未満では 16.8%とポイントが大幅に大きくなっている。1 億円を超えるパッケージは年商 100 億円以上の企業に提案することが効果的である。年商の約 1%が年間 IT 予算の目安となっており、年商 100 億円以上の中堅企業は IT 投資の資金を十分に持っていることがわかる。

### 〔ERP 利用実態〕

#### - 利用中の業務システムのトップは自社仕様業務システムで 69.4%、ERP は 13.2% -

現在利用中の業務システムで最も多いのは「自社仕様業務システム」で 69.4%。全体の約 7 割を占める結果となった。それに対して「単体の基幹系システム」は 17.4%、「ERP パッケージ」は 13.2%となっている。

自社仕様業務システムの多くがオフコンやメインフレームなどを指しており、フルカスタマイズされているために企業の業務仕様に合っていることが特徴だ。全体の約 7 割を占める自社仕様業務システムのユーザを ERP へと転換させることが ERP ベンダの課題となる。

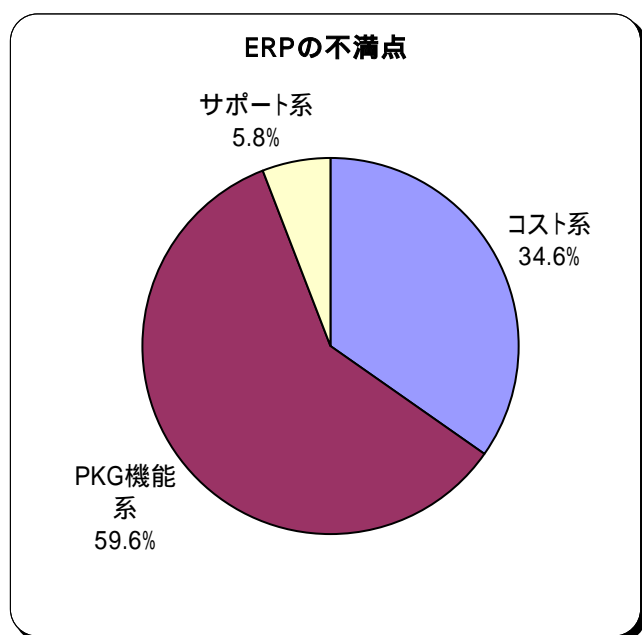


### ERP に対する意識

	ERP 導入企業		ERP 未導入企業	
	ERP 導入を検討するきっかけ	現情報システムの老朽化	66.1%	現情報システムの老朽化
	現サーバのリース期限切れ	30.4%	現サーバのリース期限切れ	33.2%
	システムベンダ・コンサルタントの提案	21.7%	企業規模・業容の拡大	20.6%

ERP導入で検討される目的	業務情報のリアルタイム性の実現	55.7%	業務情報のリアルタイム性の実現	63.6%
	業務処理コスト・人件費の削減	40.0%	業務処理コスト・人件費の削減	41.7%
	システム運用コストの削減	31.3%	意思決定のスピードアップ	35.6%
ERPを選定する際の基準	自社の業務内容・プロセスとの適合性	28.7%	自社の業務内容・プロセスとの適合性	60.7%
	カスタマイズや拡張の容易性	27.8%	運用、保守コスト	44.5%
	ベンダの信頼性	25.2%	カスタマイズや拡張の容易性	32.8%
ERPの魅力	パッケージに含まれる業務機能の広範性	52.2%	パッケージに含まれる業務機能の広範性	51.8%
	低価格	33.0%	低価格	34.8%
	複数の外部システムとの接続性	30.4%	複数の外部システムとの接続性	34.4%
導入ベンダ選定基準	サービス・サポート対応力	45.2%	サービス・サポート対応力	72.1%
	現在・過去の付き合い	36.5%	導入にかかる費用	41.3%
	導入にかかる費用	29.6%	自社業務へのカスタマイズ能力	38.1%

- ERPへの不満点はPKG機能が約6割 -



ERPの不満点として最も多いのはPKG機能に対するもので59.6%となっている。その内容は「業務の変更に抵抗がある」「細かいカスタマイズが困難」という声がある。ユーザの業務内容との適合性、カスタマイズの拡張や容易性はERPパッケージには大きな課題だ。

このような不満に対しては、パッケージの完成度を高めることが必要となる。中堅・中小企業は自社業務にあわせてフルカスタマイズされたオフコンを使うことに慣れてしまっているから、現在のERPに対して不満が出てくるのだ。ベンダは機能的な完成度を高める必要があることが今回の調査で浮き彫りとなった。

有限会社ノークリサーチ

担当：伊嶋、河田

〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5-502

03-5629-2163 Fax03-5629-2164

URL: <http://www.norkresearch.co.jp>

E-mail: [kawada@norkresearch.co.jp](mailto:kawada@norkresearch.co.jp)